

2022.1.15 共に学び、生きる共生社会コンファレンス（陸前高田市）

社会福祉法人光林会
るんびにい美術館
（花巻市）



「更生施設」の時代。訓練としての農業。
丹精込めた作物を町に売りに出ると「施設で作った大根」は断られた。



1998年頃から徐々に創作活動の充実を図り始める。
「指導」するのではなく、あくまでも表現の主体は作者。



施設の外での展覧会。



新聞記事に。でも「文化欄への掲載は難しい」。



2007年「るんびにい美術館」開館。



館内にはギャラリーの他に
カフェ、ベーカリー、ショップ。



2階に設けられたアトリエ。



アトリエは出会いとコミュニケーションの場。



アトリエメンバーが学校などに出向く「であい授業」。



作者の側から見えている「この世界」を知る。



花巻市主催によるルンビニー展（花巻市文化会館）。

障害者アートの特徴

八重樫季良さん



直線と色彩を使った無限の世界を創り出した八重樫季良さん

創作者・八重樫季良さん (64歳、5・10、北上市) は障害がある人が生み出す美「アール・ブリュット(生の芸術)」の本真における礎となった。豊かな色彩を持つ、生命力あふれる絵で親しまれた。ダウン症があり、心臓が生まれながらに弱かった。エを拠点に制作を続けた。

10歳ごろから誰に教えられず、たわけでもなく絵を描き始めた。花巻市の社会福祉法人光林会が運営するルンビニ一帯に入所、同会がアートを重視するきっかけとなった利用者の一人となる。2007年に開催した「んびに美術展」の随アトリエを拠点に制作を続けた。

作風は、画面を直線や丸で区画付けし、鮮やかな赤や緑、黄に着色。気になる建築物や自動車を、持ち前の独自回路を通して展開していくもの。この基本姿勢は最後まで一貫していた。周囲と常にコミュニケーションを取ろうとする性格は場を和ませた。

2014年7月に移転開館した一関図書館で副館長に就き、自身の読書体験を、利用者が次の一冊に出会うために役立ててもらおうと紹介した。

1年生の時に映画、ドストエフスキの「カラマゾフの兄弟」を見て無性に原作が読みたくなったことだ

月刊タワ
前編集長の
2・18、盛
際ミステリ
文士復活活
団子製造
目店主千壽
・28、一関
で長年(空

産

文

視覚時
伊藤元之
北上市
17、新
39に参
集「耳の
な海外
た。俳優
年、6・2
年劇場入
描いた全
首飾り(一
主要な役を

六

伊

2020年暮れ。文化欄の総括記事で八重樫季良さんの追悼。

共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック 分科会②

特定非営利活動法人アートで^{あが}明るく生きるかわさき

地域活動支援センター 工房てんとう虫



岩手県一関市川崎町薄衣字諏訪前 97 番地

TEL&FAX 0191-43-4733

✉ agarugu.igiru-1064@purple.plala.or.jp



「工房てんとう虫」は平成 14 年に家族会によって障がい者小規模作業所として開所しました。その後平成 17 年に「NPO 法人アートで明るく生きるかわさき」が地域の有志により設立され、NPO 法人が工房てんとう虫の運営を引き継ぎました。

「工房てんとう虫」は在宅障がい者の社会参加の促進を目的に、「日中の活動の場」「社会参加に向けた生活訓練、授産活動」「自己表現やなかまづくり」「憩いの場」として、一関市から事業の受託を受け運営しています。

精神障がいのある方を中心に 13 名の登録者が通所しています。(令和 3 年末現在)

当初は川崎町内の方だけの利用でしたが、市町村合併したため対象者は一関市内在住者となり、川崎町・千厩町・藤沢町・大東町・東山町・一関市の方が利用しています。20 代から 60 代。

月曜から金曜の平日 8 時 30 分ごろから 2 時 30 分ごろの開所です。

授産内容は・一関市役所川崎支所の清掃作業

- ・お盆前やお彼岸前のお墓掃除作業
- ・季節商品や自主製品の製作・販売
- ・絵画創作や手工芸品製作
- ・会議へのお茶出し
- ・イベント時の販売 等

行事は ・デイケア教室「てんとう虫教室」、他交流会参加

- ・調理実習
- ・女子会、お花見などのおでかけ

「あがるぐいぎる」をモットーに頑張っています。

共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック 分科会② 資料【久慈地域卓球バレー協会】

プロフィール	
活動地	岩手県久慈市他
団体名	久慈地域卓球バレー協会
活動名称	久慈地域卓球バレー協会
PRポイント	卓球バレー ～みんなで「できた」「楽しい」を～
連携している団体等	小学校、特別支援学校、公民館、PTA、社会福祉法人、企業・事業所、行政(教育委員会、保健・福祉部局)、その他(老人クラブ、一般社団法人岩手障がい者スポーツ協会、独立行政法人JICA東北)
活動分野	スポーツ、その他(国際交流)
主な対象	障害種問わず (主に肢体不自由)
団体の規模	会員 21名

活動の説明	
① 活動内容	<p>【大会(あまちゃんカップ)の開催】 障がいの有無に関わらず、共にスポーツを通じた交流が図ることができるよう、一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会と連携し、平成30年から大会(あまちゃんカップ)を開催している。総勢200名程度(H30:185名、R1:208名)が参加する大会となっている。</p> <p>【定期練習会・講習会の開催】 毎月第2水曜日に練習会を開催したり、PTAからの依頼や各地区公民館における講習会を開催したりしている。</p> <p>【交流大会への参加、県外への広報活動等】 他地域の交流大会に参加し、競技レベルの向上を図るとともに、審判員の派遣、他県の訪問など、他地域・他団体との交流等をおして広く普及・啓発・広報活動を行っている。</p>
② 活動の経緯・体制	<p>障がい者スポーツ指導員講習会で卓球バレーを体験した有志が、久慈広域で卓球バレーを普及することを目的に、平成29年4月から活動を開始した団体である。</p> <p>現在、21名の会員(障がいのある方も加入)で組織される団体である。全会員から会費を徴収し、会の運営を行っている。</p>
③ 活動の効果等	<p>○これまで、スポーツに参加できなかった障がいのある方のスポーツ活動の場となっている。</p> <p>○講習会で学んだ受講者が大会に参加するなど、学びと活動の循環が生まれている。</p> <p>○障がいのある会員が、地域の交流事業に審判員として派遣されるなど、地域社会とのつながりが生まれている。</p> <p>○数多くの機関・団体との連携のもと、大会の開催や定期的な練習会の実施、講習会の開催、他団体・他地域との交流など多様な活動を展開し、障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツの普及・啓発活動に取り組んでいる。</p> <p>○各活動を通して障がいに対する理解促進や共生社会づくりの推進を図っている。</p>

活動の様子	
	
卓球バレー久慈交流大会(あまちゃんカップ)の開催	歓迎レセプション(あまちゃんカップ)に参加したJICA研修生の皆さん(10か国11名)